



栃木県立図書館

栃木が何でもわかる

栃木県立図書館は明治43年、「二宮文庫」として創設。昭和21年11月に栃木県立図書館の名称で戦後、スタートしました。現在の所蔵図書は約73万冊。書籍類の貸し出しや調べ物などに直接対応するほか、県内の公立図書館をネットワークで結び、その中核的な存在となっています。「総合目録を整備してあり、どこの図書館にどんな資料があるかここで検索できます」と福田英雄館長はその役割を語ります。

また、「『“とちぎ”のことなら何でもわ

省内公立図書館の中核的な存在 vol.6

栃木県立図書館 データベース導入事例

かる図書館』を目指し、地域資料の収集には特に力を入れています」と羽瀬修副館長。県や市町の行政資料はじめ、県にまつわる出版物、ゆかりのある人たちの著書など、その数は8万6000点に及びます。

様々なイベント実施

館内では様々なスペースを活用して企画展示を開催。1月からは栃木DCに先行し、所蔵の地域資料を使って栃木の魅力発信の企画展を開きます。また、大谷石づくりのホールでは随時、県民ライブコンサートも実施しています。近くにある県庁の駐車場が2時間無料で利用できるのも便利です。フェイスブックによる情報発信も始めまし

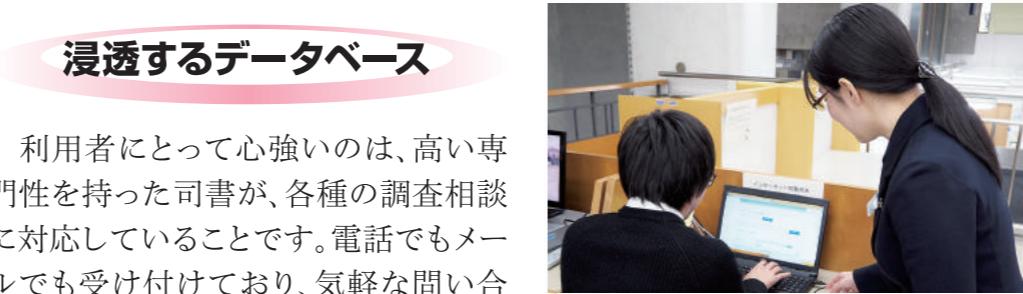


コンサートにも使われるホール

た。「展示イベントや、コンサートの情報などのほか、新着図書も見ることができます」と田中祐管理課主事。

浸透するデータベース

利用者にとって心強いのは、高い専門性を持った司書が、各種の調査相談に対応していることです。電話でもメールでも受け付けており、気軽な問い合わせを呼び掛けています。今年度から



今年度導入されて好評のデータベース

は「下野新聞データベースplus日経テレコン」を導入。利用者に徐々に定着してきました。「パソコンを使って自分で調べる人が多いですね。高校野球の記録などは、一覧で見られるので重宝されているよう」と調査相談課の江口寛子司書。下野新聞の掲載記事に関する問い合わせが多いため、調査相談にあたる職員にも大きな助けになっています。

下野新聞データベース

地域密着の栃木県内ニュースから国内外の経済情報を検索可能！



毎日150件以上更新／収録記事約100万件以上(下野新聞)

下野新聞が、国内最大級の会員制ビジネスデータベースサービス「日経テレコン」とのタイアップにより提供する「下野新聞データベースplus日経テレコン」。

下野新聞ならではの地域に密着したきめ細やかな記事と、国内外のダイナミックな動きを幅広く伝える日経各紙の記事を横断的に検索することができます。